

金融リテラシーを高めながら 責任ある消費者として歩み出す生徒の育成 — 中学校技術・家庭科（家庭分野）C消費生活・環境の実践 —

原田 悦子* 中西 正善**

*家政教育講座

**附属岡崎中学校

While improving financial literacy Fostering students to walk as a responsible consumer — Junior high school technology/home economics (household field) C consumer life/environmental practice —

Etsuko HARADA* Masayoshi NAKANISHI**

*Department of Home Economics Education, Aichi University of Education, Kariya 448-8542, Japan

**Okazaki Junior High School Affiliated to Aichi University of Education, Okazaki 444-0864, Japan

Keywords：中学校技術・家庭科（家庭分野）消費生活 金融リテラシー教育

I はじめに

高齢化、低成長、財政難といった経済・金融情勢の変化により、個人が生きていくうえで必要な金融や資産運用に関する基本的な知識（金融リテラシー）の必要性が強調されるようになった。金融リテラシーは短期間に広く世間に普及しただけでなく、学習指導要領において、小学校は2020年、中学校は2021年、高等学校では2022年から金融リテラシー教育が組み入れられるようになった。これまで資産形成も含めた金融経済の学びといえば、大学の特定の学部において学ぶというのが通例だった。しかし、これからは高校卒業までに社会で生きていくために必要な金融経済の知識を身につけることが必要だと考える。

「2022年：学校と家庭における金融教育に関する意識調査（イー・ラーニング研究所調べ）」では、「どうして金融教育が今求められていると思いますか」の問では、1位に「将来の先行きが不透明な時代だから」、続く2位が「資産運用が当たり前の時代だから」、3位が「働き方やライフスタイルが多様化し

ているから」であった。このことから、働き方やライフスタイルの多様化に伴う生涯のマネープランの多様化を受け、想像のつかない将来に備えた“長期のお金の使い方”を学ぶ必要性が高まっているといえる。これに加えて、政府主導の「貯蓄から投資へ」の資産所得倍増計画により、資産運用が“当たり前”のこととして浸透していることがわかる。また、「いつから学校教育で金融教育を始めてほしいと思いますか」という問について、約4割が「小学校低学年」と回答し最も多く、「小学校以前」が続いた。高校での金融教育の導入は進むものの、親としては、小学校低学年以前での金融リテラシーを身につけてほしいと考えており、金融教育へのニーズの高まりが伺える。

高等学校「家庭科」の授業では、基礎的な金融経済の仕組み、株式や投資信託などの金融商品や資産形成の視点にふれた学習を行う。中学校においては、消費者教育の推進に関する法律（消費者教育推進法）の定義に基づく消費者市民社会の担い手としての自覚をもっ

てライフスタイルの確立の基礎を培うことをねらっている。そこで、中学校技術・家庭科（家庭分野）の学習において、将来の生活や社会に目を向け、金融リテラシーを高めながら責任ある消費者として歩み出す姿を期待し、本実践を行った。

II 実践の様子

1 問題を見いだす

(1) 投資のニーズが高まっている実感をもつための資料提示

教師は、投資に関する書籍が書店に並んでいる資料を提示し、どうしてこれだけたくさんの書籍が多く並んでいるのかと問うた。子どもは、「これからは資産形成が大切になってくる。」「株でお金を増やすとよい。」と答えた。その後、感想を交流するなかで、「余剰資金で資産形成するとよい」、「しかし、いきなり初心者が取引をすることは心配がある。仮想トレードをしながら株を学んでみたい」という思いが共有された。

(2) 投資体験を行う

教師は、前時の子どもの思いをもとに、株式の仮想トレードを行うことができるアプリケーションソフトを紹介した。子どもは、それぞれのタブレットにアプリケーションをインストールし、思い思いの銘柄に投資を行って株価の推移を見守っていた。しかし、仮想トレードを行ったものの、銘柄が多く、株価も安定していないため何の株を選べばよいかわからないという思いをもった。そして、どのように投資先を選べばよいのだろうと考え、追究を始めた。

(3) 意見交流

子どもは、チャートをもとにして売買タイミングを考えたり、ニュースから社会を見て株価の変動を捉えたりとそれぞれの投資先について考えを深めていった。そして、授業ごとに、リフレクションによって考えを省察し、改善点や足りない点に迫りながら考えを深め

ていった。

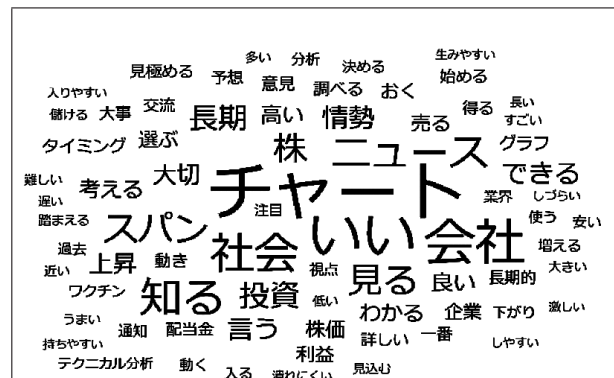
昨日チャートをもとに考えたとおり、上がった。特にA社の上がり幅が大きく、プラス 36000になった。A社が上がった理由を考えた。A社は元々高かったが、大株主が100万株を売り払ってしまったため一時的に下がってしまったようだ。前日より一定値以上下がっている会社を中心に買っていきたい。

注目生徒のリフレクションシート

注目生徒は、「経済生活」の視点で省察し、チャートの特性を捉えた上で追究の見通しを立てていることがわかる。

そして、仲間の意見が聞きたくなったところで、教師は意見交流の場を設定した。

意見交流では、それぞれが考えた投資先の選び方を伝え合った。その後、教師は、意見交流後の感想を集約し、テキストマイニングを行って仲間の考えを可視化した。



「どのように投資先を選べばよいのだろうか」に対するテキストマイニング

子どもは可視化された仲間の考えを見ながら更なる意見交流を行った。意見を述べ合う中で、「チャートは過去の株価から先を読むものであり、長期的な目線でこれからの社会に求められる将来性の高い会社を選択すべきだ」という思いが共有された。ワークシートには、「社会」のキーワードを中心に仲間の考え方に対する受け止めがまとめられていた。

これは、これまでの追究にはなかった視点であり、考えの広まりがわかる。そして、「どのような会社に投資をすればよいのだろうか」という問題を見だし、更なる追究を行った。

問題を見いだしたところで、子どもは、アプリケーションで株価の推移を観察したり、新聞やインターネットのニュース、掲示板を読んだりしながら問題解決に迫り、リフレクションによって考えを省察して考えを深めていった。

企業の価値、事業への期待などが株価に大きく関わってくる。これからの未来、僕たちの生活に大きく関わってくる会社に投資していきたい。

注目生徒は、「持続可能な社会の構築」という視点で省察し、自身の投資行為が生活や社会に関わってくることを理解しながら、追究の見通しを立てていることがわかる。

そして、追究が進み、仲間の考えを聞きたくなったところで、教師は、再び意見交流の場を設定した。

業種に着目した子どもは、関心のある会社だけでなく、セクターごとに投資先をソートして関連銘柄にも着目するとよいと語った。また、社会問題や環境問題の解決に着目した

[illegible]

その後、意見交流後の考えが集約されたテキストマイニングをもとにさまざまな考えが語られる中で、「消費者は責任をもって生活や社会に有益な会社を選ぶ必要がある」という考えが共有され、それぞれの最適解が見いだされた。

本時を終えた後の注目生徒の授業日記と教師との対話記録（次頁）から、テキストマイ

配当金や今後伸びそうな企業、他にも好きな企業を応援するなどいろいろな考え方がある。この中でも応援するために投資するということが大切だと考える。実際にその事業を応援するときに株を何百、何千と買わないと企業側に利益が出ないが、気持ちだけでも応援するために数個だけ株を買うこともありだと思う。これからの自分の利益になる自己中心的な投資の仕方以外だけでなく、投資によって社会としてプラスの方向に動かすことが大切だと思った。

—137—

ニングの活用によって、注目生徒は他者の考えを考察し、自分と同じような考え方をもつ仲間がいることを実感しながら、さまざまな視点を捉えて批評できたことがわかる。注目生徒は、1回目の意見交流と比較して自身の利益という目的だけでなく、「社会貢献へと考えが移り変わっている」と批評している。また、批評を行いながら「数個だけ株を買う」と自分の投資行為が社会の変化につながるという持続可能な社会の構築の視点での考え方の深まりも見取ることができる。

教師：テキストマイニングに対する受け止めをまとめてどうだったか。
 生徒：応援という意見に注目した。ここに表れているということは、同じ考えの人が一定数いる。自分の利益だけでなく、これからの社会をよくするために応援したいという社会貢献へと考えが移り変わっていることがわかった。
 教師：数個だけ買う、という意見はどういう意図か。
 生徒：株価というのは自分個人だけでは基本的に動かすことができない。しかし、多くの人たちが買うことでその量は大きくなる。社会全体にとってプラスになるような会社への投資が大切だ。

教師と注目生徒の対話記録

3 学びを生かす

(1) STOCKリーグへの参画

最適解が見いだされた後、感想を交流し、「投資先を選ぶだけではなく、商品の購入も考えていかななくてはならない。」「ポートフォリオを見直し、環境問題の解決につながる企業を厳選したい。」などの志が表出した。教師は日本経済新聞社が主催する「日経STOCKリーグ」を紹介することで、ポートフォリオを見直し、学びを生かす場を設定した。子どもは、日経STOCKリーグに参加し、ポートフォリオのレポートの作成を行っている。

(2) 注目生徒の単元まとめ

注目生徒は、学びを通して投資は自身の資産形成という側面だけでなく、経済や社会を形成することを感じ取っていることがわかる。

この単元を経て株や企業に対する考え方が大きく変わった。株は会社への需要や評価などが複雑に絡み合ったものだ。しかし、まだ見極めきれない部分もある。これからも経験をしながら学んで行くことが大切である。もっと株、経済、需要と供給、社会への期待などを分析して将来にいかしていきたい。

注目生徒の単元まとめ

4 成果と課題

初めはチャートに注目し、自身の利益という視点で追究していた注目生徒だが、社会貢献という視点へと変遷させながら、持続可能な社会の構築に向けて、責任ある消費者としての投資をしていこうという思いを見取ることができた。STOCKリーグのレポートには、未来のエネルギーをテーマに設定してポートフォリオを模索し、これからの生活やキャリア形成につなげる姿を見取ることができた。

本実践では、投資は余剰資金で行うという考えにはふれられたが、生活をもとにした実質的な金銭管理については多くはふれられなかった。収支のバランスを図るために、生活に必要な物資・サービスについての金銭の流れを把握し、収支に応じた計画的な投資が必要であることを理解できるようにしたい。

引用・参考文献

- 1) 「2022年：学校と家庭における金融教育に関する意識調査（イー・ラーニング研究所調べ）」
- 2) 政府広報オンライン：「金融リテラシーって何？最低限身に付けておきたいお金の知識と判断力」
<https://www.gov-online.go.jp/useful/article/201404/1.html#fifthSection>